

# 平成26年度 学校評価 自己評価 報告

学校名 (京丹後市立峰山中学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p><b>【教育目標】</b> 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p><b>【めざす学校像】</b> ・ 生徒にとっては魅力ある学校 ・ 家庭、地域社会にとっては開かれた学校</p> <p><b>【めざす生徒像】</b> ・ 意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・ 思いやりのある生徒 ・ 粘り強く挑戦する生徒</p> <p><b>【重点課題】</b> ・ 確かな学力の充実・向上 ・ 豊かな人間性の育成 ・ 信頼を高める学校づくり</p>	<p><b>【小中一貫教育導入準備】</b> ○ 小中一貫教育推進協議会の組織体制を確立した。 ○ 自己肯定感を向上させる事が出来た。 ○ 交流等で小学生が中学入学の不安を減少させた事がある。 △ 小中学校の指導の連続性・系統性の更なる研究をする。</p> <p><b>【確かな学力の育成】</b> ○ 京都式少人数授業を実施する等、数学の学力が大きく伸びた。 △ 家庭学習定着、学習意欲向上の指導方法改善が必要である。 △ 教師の授業実践力の向上が果たせなかった。</p> <p><b>【豊かな心の育成】</b> ○ 不登校生徒が組織的対応で好転し減少した。 △ 一層の不登校生徒の解消と未然防止が課題である。 △ 問題事象件数が前年度に比べほぼ同数で大きな課題である。 △ 人権意識・規範意識を醸成する指導の充実が必要である。 △ 個別の支援計画による生徒への具体的な指導が必要である。</p> <p><b>【信頼を高める学校づくり】</b> ○ 学校公開や学校便り等で、積極的な情報発信に取り組めた。</p>	<p><b>【小中一貫教育完全実施】</b> ・ 児童生徒の「自己肯定感」を更に育成する。 ・ 峰中ギャップを学園内全教職員が理解し、解消に向けて教育を組織的・計画的に実践する。</p> <p><b>【確かな学力の育成】</b> ・ 教師の授業実践力の向上を図る。 ・ 言語活動の充実、家庭学習習慣の確立を図る。 ・ 総合的な学習、読書活動を一層充実させる。</p> <p><b>【豊かな心の育成】</b> ・ 道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・ 人権・規範意識の醸成を図る。 ・ 通級指導教室の運営を充実させる。 ・ 不登校・いじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・ 健全な食生活を目指し食育を推進する。</p> <p><b>【信頼を高める学校づくり】</b> ・ 学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・ 家庭の教育力を高めるための活動を進める。</p>	<p><b>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</b></p> <p><b>【小中一貫教育完全実施】</b> ・ 児童生徒の「自己肯定感」を更に育成する。 ・ 峰中ギャップを学園内全教職員が理解し、解消に向けて教育を組織的・計画的に実践する。</p> <p><b>【確かな学力の育成】</b> ・ 教師の授業実践力の向上を図る。 ・ 言語活動の充実、家庭学習習慣の確立を図る。 ・ 総合的な学習、読書活動を一層充実させる。</p> <p><b>【豊かな心の育成】</b> ・ 道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・ 人権・規範意識の醸成を図る。 ・ 通級指導教室の運営を充実させる。 ・ 不登校・いじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・ 健全な食生活を目指し食育を推進する。</p> <p><b>【信頼を高める学校づくり】</b> ・ 学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・ 家庭の教育力を高めるための活動を進める。</p>	
<p><b>評価項目</b></p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領への対応を的確に行う。</li> <li>指導方法の工夫改善により学力量と学習意欲の向上を図る。</li> <li>学習規律を確立させると共に、家庭学習の充実を図る。</li> </ul>	<p><b>具体的方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫した学習指導方法を研究する。</li> <li>学習指導要領を完全実施する。</li> <li>年間指導計画を見直すとともに、授業時数の確保を図る。</li> <li>各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。</li> <li>週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。</li> <li>少人数授業(数学・英語)を効果的に実施する。</li> <li>校内授業研究会を実施し授業実践力を高める。</li> <li>生徒の学習状況を毎週交流・点検する。</li> </ul>	<p><b>成果と課題(自己評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中一貫教育の取組で3回、本校独自で6回授業研究会を行い「グループ学習」の指導が広がった。又、学習方法のつまづきが軽減し、分かる授業を実感した生徒が多い。2年学力診断テストで府平均を上回った。</li> <li>○ 学習状況等の交流を行い、具体的な指導方針を立てたことで、授業規律は確立している。</li> <li>○ 定期テスト前の家庭学習充実週間の取組で、機運の醸成と習慣化が図れた。</li> <li>△ 家庭学習の充実に向けて、宿題等の出し方、生徒の意欲の醸成等に工夫改善が必要である。</li> </ul>	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。</li> <li>・ 生徒の実態を早期に把握し未然防止に努める。</li> <li>・ 生徒の主體的な取組を進め自己肯定感を育てる。</li> <li>・ 保護者の教育に関する悩みに丁寧に対応する。</li> <li>・ 関係諸機関との連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫した指導（生活の決まり等）を実施する。</li> <li>・ 自己肯定感の向上のため、「褒めて励まして指導」を充実する。（「輝きの峰中」集会等）</li> <li>・ 問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。（生徒指導日より）</li> <li>・ 不登校生徒については毎週の教育相談部会やケース会議で実態を把握・分析し、具体的な方針を立て行動する。</li> <li>・ 全校・学年集会、生徒会で生徒の主體的な活動を作る。</li> <li>・ 警察、児童相談所、教育委員会等関係機関と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の自己肯定感が醸成された。又、暴力事象の減少等、全校生徒が落ち着いた。</li> <li>○ 不登校生徒を減少させることができた。</li> <li>○ 生徒会活動により生徒の意欲と主体性が向上した。</li> <li>○ 防犯教室等で規範意識を高めた。</li> <li>○ 部活動は全教職員で早朝から指導し、生徒保護者から信頼を得るとともに、生徒の自信を高めた。</li> <li>△ 情報端末機器の正しい取扱方等の善悪の判断力・行動力の育成を強化する。</li> <li>△ 不登校生徒の解消への取組を更に進める。</li> </ul>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健教育を系統的に進める。</li> <li>・ 食育の推進を図る。</li> <li>・ 安全意識の向上を図る。</li> <li>・ 体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健学習・特別活動との関連を図る。</li> <li>・ 教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。</li> <li>・ 交通安全指導を徹底する。（交通教室、PTAとの連携）</li> <li>・ 避難訓練（地震・火災）を実施し安全意識を高める。</li> <li>・ 体育授業の工夫を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病気予防の意識が高まった。</li> <li>○ 給食マナーが向上し、感謝する心が育った。</li> <li>○ 地震・火災等に対する安全意識や対応力が高まった。</li> <li>○ 体力の向上と競技力向上に高い評価を得た。</li> <li>△ 自転車の交通マナー向上に向けて工夫改善を進める。</li> <li>△ 怪我予防の体操講座を実施したが課題が残った。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 峰山中学校区小中一貫教育実施校（愛称「峰山学園」）の機能化を図る。</li> <li>・ 自己肯定感を育成する。</li> <li>・ 峰中ギヤップを解消する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校が「目指す子ども像」を共有し、学校経営方針を共通化する。</li> <li>・ 小中学校が一貫した学習指導・生徒指導等を実施する。</li> <li>・ 児童生徒・教職員の交流の機会を企画する。</li> <li>・ 児童生徒の教育を支援する環境を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 峰中ギヤップ（学力、問題事象、不登校）が改善した。</li> <li>○ 小学生の進学が楽しみとの回答が増加した。（81→85%）</li> <li>○ また中学生に憧れを持つ児童が多い。</li> <li>○ 本校生徒の自己肯定感が増加した。</li> <li>△ 小中一貫教育経営計画の着実な実践が重要である。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域や保護者に積極的な情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。</li> <li>・ 地域へのボランティア活動を推進する。</li> <li>・ ホームページ、学校便り、学級便り等を充実する。学校便りは地域回欄を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事の参観、学校便りの発行（地域回欄含む）、HPの定期的な更新が出来た。</li> <li>△ 小中一貫教育の広報の工夫をする。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育を計画的に推進する。</li> <li>・ 説明会・進路相談の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験活動に基づきキャリア意識の向上と啓発を進める。</li> <li>・ 年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。</li> <li>・ 保護者・生徒向けの進路説明会を早期から行う。</li> <li>・ 二者・三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年毎の体験活動により勤労観が育った。第2学年による一連の立志式の取組で将来の決意を抱かせた。</li> <li>○ 生徒・保護者ともに進路実現に向けた意識が向上した。</li> <li>○ 希望進路を実現させた。</li> <li>△ 9年間を見通したキャリア教育の充実が課題である。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 小中一貫教育実施により、峰中ギヤップの解消を図る峰山学園（愛称）経営の一層の充実</li> <li>1 峰山学園の教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子ども育成」の実現に向け、小中学校が一貫した教育を推進する。</li> <li>2 学力向上プロジェクトの活性化と、信頼を高める学校づくりの発展を図る。</li> <li>3 地域連携協働の推進組織「峰山学園教育支援協議会」の活用により、学校経営の充実を図る。</li> </ul>		

## 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名 〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
1	学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着	○生徒達の学校生活が安定している。 ○授業改善に向けて授業研究等に工夫努力し、学力向上につなげる取組が進んだ。生徒のわかりやすい授業の評価は22年度70%→23年度81%→24年度80%→25年度83%→26年度82%と継続的な評価を得ている。 ○保護者に学校の課題と方策をオープンにして協力を要請、生徒には考え・目標立ての指導で集団の意識改革を図った。 ○校内研修フィードバック化が定着し、教職員で共有化することと研修の意識改革を図ることができた。 △生徒指導に関わる学級経営力の向上と組織的な指導体制で迅速な対応を行う。 △不登校問題の改善に向けて、具体的な方策と実践を行う。	1 学力向上に向けた取組の推進を図る。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 3 生徒指導の充実を図る。 4 健康や体力の向上に努めさせ、心豊かな人間性を育む。 5 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 6 人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。 7 保幼・小・中・高連携の更なる推進に努める。 8 信頼され、開かれた学校づくりに努める。			
2	進路を切り拓く能力と実行力の育成					
3	健康な体と豊かな心の教育の充実					
4	信頼される学校づくり					
5	教職員の資質能力の向上					
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)			
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な学校運営の推進</li> <li>学力の実態把握と向上</li> <li>学ぶ意欲の向上</li> <li>思考力、判断力、表現力の育成(言語の力・活用する力)</li> <li>指導方法の研究と改善</li> <li>授業規律の確立</li> <li>家庭学習習慣の確立</li> <li>人権教育と集団育成を基盤に学校生活の安定と活性化の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な学校運営を推進するため、各分掌との連携強化を行う</li> <li>い、教育活動の取組の充実を図る。</li> <li>学校経営計画による総括と改善に向けた具体的方策の確認を行い、生徒達の学ぶ意欲の引き出しと教職員の教科指導の充実を図る。</li> <li>「学力向上プラン」を基盤に家庭学習の取組を推進する。全教科で言語の力を育成するための週末課題学習を提示し、指導の継続を行う。</li> <li>指導力の向上を図る研修の充実を図る。</li> <li>授業規律に関する指導の統一を図る。</li> <li>生徒会活動の充実を図る。</li> <li>集会、HR、SHRにおいて聞く・考える・話し合うことを重視し、生徒の生活改善と学校生活の活性化を図る。</li> </ul>	<p>○「学力向上プラン」を基盤に家庭学習習慣の取組が推進できた。とくに、全教科が言語の力を育成するための課題を提示し、学習習慣の意識化につなげることができた。</p> <p>○外部研修を校内研修にフィードバックし、授業改善に向けた研究を推進した。生徒のわかりやすい授業の評価は、22年度70%→23年度81%→24年度80%→25年度83%→82%である。</p> <p>△学力向上につながる言語の力の取組は人権教育研究推進の取組や総合的な学習の時間発表会にその力を発揮することができたが、今後日常生活や授業の中での継続と検証・研究をしていかなければならない。</p> <p>△学力の定着・向上に向けた各教科の指導方法と取組を整理し、学習の手引きの活用と家庭学習の定着に生かす。</p>			

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導体制の充実改善</li> <li>・学級経営の充実</li> <li>・好ましい人間関係の育成</li> <li>・自らの課題を解決する意欲の育成</li> <li>・規範意識の向上</li> <li>・不登校の未然防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かな指導体制を確立し、報告・連絡・相談を徹底し、具体的な方策をもって迅速な対応を行う。</li> <li>・学級経営、教科指導、部活指導などあらゆる場面で規範意識を向上させる指導の展開を行う。</li> <li>・アンケートを実施し、生徒の悩みや相談について把握し、生徒理解とともに丁寧な指導・助言を行う。</li> <li>・家庭、地域、校種間と連携した生徒指導の充実を図る。</li> <li>・定期的な教育相談部会を行い、現状維持ではなく一歩踏み出す方策を練り合い、指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者に学校の課題と方策を伝えて協力要請、生徒には聞く・考えさせる指導の展開で集団の意識改革を図った。</li> <li>○指導の方向を共通認識する指示系統の一致を図った。</li> <li>○生徒の規範意識の涵養、自他の人権尊重、社会性の育成や自己指導力を培う取組は、生徒会活動の活性化や個々の生徒の意欲の高まりとして変容が見られた。全体的に生徒は落ち着いた学校生活を送っている。</li> <li>△不登校生徒の未来を切り拓いていく前向きな意欲や自尊感情の育成に課題が残る。</li> </ul>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> <li>・部活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、交通マナー、登下校の安全、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。</li> <li>・異年齢の集団で、共通の興味関心をもって運動や文化の楽しさを体得させるため、日々の部活指導を大切にす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波・地震の避難訓練は、大宮こども園の園児と共に高台に避難する取組も二年目となり、園児に手を貸しながら全校生徒が素早く避難した。地域清掃や避難訓練は助け合いの精神を高めるのに効果的だった。</li> <li>○部活指導を大切にし、生徒の達成感、充実感を高めた。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育総合推進地域事業の推進</li> <li>・教育活動の積極的な公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育、学習指導、生徒指導、キャリア教育に関する小中連携の研究・研修を推進する。</li> <li>・学校から地域へ発信、広報の充実を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権意識の涵養を図る取組が進んでいる。</li> <li>○校区の小中学校の先生同士の研修を深める事ができた。</li> <li>△人権教育研究推進に対する教職員の認識と進捗状況の差</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進</li> <li>・目的意識を高める指導の充実</li> <li>・学力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実を図る。</li> <li>・計画的な二者面談、三者面談の実施を行う。</li> <li>・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。</li> <li>・放課後学習会と家庭学習課題の取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育10年間のカリキュラムを作成した。</li> <li>○家庭学習課題の指導は、生徒の学習意欲と家庭学習習慣の定着につながった。</li> <li>△進路学習を充実させるために指導資料の整理を行う。</li> </ul>
研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の指導力向上を図る研修の充実</li> <li>・人権意識の啓発・向上と実践力の育成</li> <li>・学力向上の理論研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修の内容を校内研修へフィードバックする。</li> <li>・人権意識を高め、実践的な力を育てる。</li> <li>・言語の力の理論研究を進め、全教科の学習と諸活動で言語の力を育て、思考力・表現力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部研修の校内研修フィードバック化が充実し、教職員で共有化することと研修の意識改革を図ることができた。</li> <li>○文科省指定の人権教育総合推進地域事業の研究を進めるにあたって保幼小中連携の取組や研修が進んだ。</li> <li>△自他を尊重する意識の涵養を更に充実・実践していく。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職員の教科指導力・生徒指導力の向上を目指す。（若手教職員の指導力とコミュニケーション能力の育成が不可欠）</li> <li>2 人権教育の研究指定を基盤に学校改善を図る。（人権意識の涵養、言語の力の育成、進路実現、教育活動の充実）</li> <li>3 全教科における質の高い学力の育成と教育活動の充実を目指す。</li> <li>4 夢を持ちチャレンジする生徒の育成を目指す。</li> <li>5 不登校と問題事象の未然防止に向けた家庭・地域・学校の連携充実を目指す。</li> </ol>		

## 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底、言語活動の充実により、学力の充実・向上を目指す。</li> <li>・他人を思いやる心、規範意識の醸成など豊かな心を育むため、学校内外における体験活動、校内の指導体制(生徒指導、教育相談、特別活動)を充実させる。</li> <li>・向上心、忍耐力、協調性等の育成を図るため、部活動、行事等を充実させる。</li> <li>・網野町域の保・幼・小・中学校が、家庭、地域社会と連携・協力して、地域の教育環境づくりを推進する。</li> </ul>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>△各種テスト結果より、どの教科も全国、府、市平均とほぼ同等もしくは上回る結果であったが、新3年生については、平均を下回る状況が改善されていない。</p> <p>△各種学習状況調査より、高学年になるほど全国、府平均と比較して家庭学習習慣が身についていない傾向にある。</p> <p>○学校行事での落ち着いた様子や生徒会活動の活性化など、規範意識の醸成を基盤とした取組が着実に全体に浸透してきた。</p> <p>△不登校の減少、生徒の自律的な力、支え合う力の育成が課題であり、自尊感情を高める教育活動をさらに工夫する必要がある。</p> <p>○小中一貫教育において、児童・生徒の交流行事により理想の中学生像を見せることが全校生徒に定着し、学校改善につながる事ができた。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知」活用する力の育成 【各種テストにおける伸び率アップ、家庭学習1時間以上の生徒の割合60%以上】</li> <li>・「徳」自律の力、支え合う力の育成 【不登校モニター生徒の登校日数の倍増、新たな不登校を出さない。(2・3年生)】</li> <li>・「体」自らを高め続ける力の育成 【部活動、ボランティア活動、体験活動の充実】</li> <li>・「新たな学校づくり」の視点に立った教育の推進 【学校再配置に向けた小中一貫教育の推進、共通指導事項「これだけは」の推進、行動連携の強化】</li> </ul>
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p> <p>生徒指導</p>	<p>重 点 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立</li> <li>・基礎基本の徹底</li> <li>・活用する力の育成</li> <li>・家庭学習の充実</li> <li>・補充学習の充実</li> </ul> <p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通指導事項「これだけは！」に基づく指導の統一</li> <li>・全教員による授業開始直後の巡回指導</li> <li>・基礎・基本の徹底を図るための授業内での学習教材の導入</li> <li>・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編の周知 「中学生は目標90分以上の家庭学習時間」</li> <li>・中1ふりスタ、中2学力アップ、中3受験対策指導の充実</li> </ul>	<p>成 果 と 課 題 ( 自 己 評 価 )</p> <p>○活用する力の育成を目指した授業改善が全教科に浸透した。 △3教科(国、数、英)の基礎・基本の徹底については授業での反復練習やドリル、各種学習会等で全学年改善が見られたが、活用する力の育成においては3学年の課題を克服しきれなかった。</p> <p>○授業は全学年とも一定落ち着いてできるようになった。 △家庭学習の習慣(1時間以上の割合)が高学年になるにつれ、全国・府平均を下回る傾向にある。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>重 点 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との信頼関係の構築</li> <li>・規範意識の醸成</li> <li>・望ましい人間関係の育成と集団の質の向上</li> <li>・組織的指導力の向上</li> </ul> <p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との触れ合い、話しこみの充実</li> <li>・複数指導など「みんなで動く」指導体制の強化</li> <li>・網野町域を範囲とした生徒会活動の活性化、ほめる指導</li> <li>・生徒指導部会(いじめ対策委員会)、教育相談部会の定例化</li> <li>・毎週月曜の「気づき」の発行による実態把握と指導の統一</li> <li>・関係機関との連携(麦わら、病院等)</li> </ul>	<p>○問題現象の発生件数はほぼ昨年度と同様で推移し、全体は落ち着いた状態を保っている。</p> <p>○生徒の主眼的な活動がさらに充実し自尊感情の高揚につながった。</p> <p>△不登校は減少傾向にあり、関係機関との連携等により登校日数が増加する事例も見られるようになった。一方深刻なケースの具体的な手立てを講じる必要がある。</p> <p>△再配置も踏まえ、望ましい人間関係の構築に向けた指導体制の構築や指導の在り方等について共通理解を図る。</p>

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に対する意識の高揚</li> <li>・健康教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登下校指導、定期的なPTA登校指導</li> <li>・交通安全教室(1年)、避難訓練(年3回)の実施</li> <li>・定期的な施設・設備の安全点検</li> <li>・保健室来室者への適切な指導</li> <li>・非行防止教室、性教育等の実施</li> </ul>	<p>△交通ルール(一列走行、一旦停止、ヘルメット着用)を守れない事例が昨年度より増加傾向にある。</p> <p>△体育行事や授業での大怪我など、再発防止に向けた安全教育について見直し・改善を図る</p> <p>○非行防止教室、性教育など外部講師を招聘し健康教育を一層充実することができた。</p>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制の再構築</li> <li>・保・幼・小・中における指導の統一</li> <li>・行動連携のさらなる充実</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋中学校区との再配置に向けた新たな組織づくりと研究組織(教科部会、学年部会、領域部会)の機能化</li> <li>・共通指導事項「これだけは!」に基づいた授業実践</li> <li>・授業研究、交流行事等の計画的な実施</li> <li>・「これだけは!」家庭編の周知と新たなPTA組織の設立</li> </ul>	<p>○再配置と連動した小中一貫教育を推進し、次年度からの網野町域全体で小中一貫教育を導入する基盤が整った。</p> <p>○「聴く」「姿勢を正す」など小中で統一して指導した事が児童・生徒の見ええる姿として実感できるようになった。</p> <p>△算数・数学では小中間で授業づくりに向けた連携がさらに充実したが、他の教科については改善の余地を残している。</p> <p>△家庭学習の習慣化などについて、保護者への具体的な協力依頼をさらに工夫するとともに、新しい枠組みで学校・家庭・地域社会との連携組織を立ち上げる。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内体制の充実</li> <li>・障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化</li> <li>・特別支援学級における指導体制の充実</li> <li>・通級指導教室における個に応じた指導の充実</li> <li>・個別の指導計画と支援計画の見直しと活用</li> </ul>	<p>○通級指導教室、特別支援学級でのきめ細やかな指導により、意欲的に学習に取り組めるようになった。</p> <p>△支援を必要としているすべての生徒の個別の指導計画と教育支援計画を作成し、指導に生かしていく。</p> <p>△再配置に備え、個別の指導を要する生徒の対応など新たな校内の組織体制を構築する。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくり</li> <li>・双方向の情報交流を生かした学校改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応</li> <li>・地域への貢献(ボランティア活動、演奏活動等)</li> <li>・地域の教育力の活用(伝統文化体験、職場体験、外部講師の招聘等)</li> <li>・学校再配置に向けた取組の可視化(交流行事、PTA組織、制服、校章、各種会議等)</li> <li>・学校だより、HP等による情報発信</li> </ul>	<p>○問題事象に対して迅速・丁寧・誠実に対応することより、事象の深刻化や学校危機を未然に防ぐことができた。</p> <p>○授業参観、学校行事に多くの保護者に来校いただき、再配置や小中一貫教育による交流行事、外部講師を招いた体験活動など、子ども達が主体的に活躍する姿を観ていただくことで、学校教育への理解が一層進んだ。</p> <p>△網野町域小中一貫教育の情報発信を組織的に行う。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇新生「網野中学校」として、新たな枠組みで組織を再構築し、両中学校の伝統や文化を大事にしながらか教育活動を推進する。</li> <li>・授業規律の確立と「学び合い」を中心にする共通指導事項「これだけは!」に基づいた授業改善</li> <li>・生徒の望ましい人間関係の構築(再配置による新たな問題の未然防止)と自尊心を高める教育のさらなる充実</li> <li>・学校・家庭・地域社会と連携した地域連携組織の立ち上げと仕組みづくり</li> </ul>		

# 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名 ( 京丹後市立橋中学校 )

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
1	<p>学校教育目標 「知・徳・体の調和」 ～自立心旺盛な生徒の育成～ 「考える力・認める力・行動する力」 を培うことができる生徒 を目指す生徒像</p> <p>2 (1) 自分も他人も大切に思いやり のある生徒 (2) 何事にも目標を持って頑張り努力す る生徒 (3) 郷土を愛し、地域に貢献する心を持 った生徒</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放課後、長期休業中に学校体制で学習会及び5教科週末課題の提示等を行い、基礎学力の定着が図られた。</li> <li>○ 少人数学校として生徒を複数で見えるきめ細かな指導により問題行動を未然に防ぐことにつながった。</li> <li>○ 月複数回にわたる学校再配置の動向をPTAと連携し伝えることで不安をなくすようにした。</li> <li>○ 障害のある方、図書館司書、助産師等を招き、教育の質の向上を図ることができた。</li> </ul> <p>△ 思考力・判断力・表現力を高める魅力ある授業づくりを進める。</p> <p>△ 小中連携、小中一貫教育の推進に向け、授業参観、合同研修会を通して、より連携をスムーズに行う。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 学力の充実向上</p> <p>(1) 基礎的基本的な知識・技能の習得 (2) 家庭学習習慣の確立 (3) 教職員の研修 (4) 土曜日を活用した教育活動の実践研究</p> <p>2 豊かな心の育成</p> <p>(1) 教育相談の充実推進 (2) 道徳教育の充実 (3) キャリア教育の充実</p> <p>3 開かれ、信頼される学校づくり</p> <p>(1) 学校・家庭・地域社会の連携強化 (2) 網野中との学校再配置に向けた取組の充実</p>			
	<p>評価項目</p> <p>教育課程</p> <p>学習指導</p> <p>生徒指導</p> <p>健康(体育)・安全</p>	<p>重点目標</p> <p>◇学力の充実向上 ・学習機会を増やし補充学習の充実 ・授業規律の確立に基づいた授業改善、基礎学力の定着 ・家庭学習の定着 ・京都式少人数教育の積極的活用</p> <p>◇生徒のより良い人間関係の育成 ・生徒会活動の活性化</p> <p>◇危機管理意識に基づく、問題行動の未然防止</p> <p>◇不登校生徒への対応と未然防止 ・全教職員での組織的対応</p>	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習会、長期休業中の学習会、5教科週末課題の実施</li> <li>・校内授業研究会の実施による授業実践力の向上</li> <li>・ステップ・バイ・ステップ(学習状況の個票)を返却し保護者とともに学習を啓発する活動の推進</li> <li>・土曜活用(中2集中講座)による学習補充、少人数授業の推進、「中1振り返り集」の活用</li> <li>・SHR後クラスマツチドリル学習(各学期に重点旬間)</li> </ul> <p>・生徒自身に目標を持たせ、適切な評価を行う中で保護者との連携を図る。</p> <p>・生徒指導部会、教育相談部会の定例化及び行動強化</p> <p>・心の教育を充実させ問題行動を未然に防ぐ</p> <p>・生徒自身に任せ取り組ませる生徒会活動の推進</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放課後、長期休業中に学校体制で学習会及び5教科週末課題の提示等を行い基礎学力の定着が図られた。</li> <li>○ 毎学期2回のステップバイステップの実施で保護者との連携が図れた。</li> <li>○ 府教委「教師力向上事業」、市教委「授業実践力開発講座」の活用により、授業づくりにより改善が見られた。</li> <li>△ 家庭学習習慣の定着(家庭学習時間1時間未満の割合が71%で、市平均より14ポイント多い。)</li> <li>○ 少人数学校として生徒を複数で見えるきめ細かな指導により概ね問題行動を未然に防ぐことにつながった。</li> <li>○ 生徒の主体的な活動の育成により、よりよい人間関係が醸成できた。</li> <li>○ 昨年度まで不登校傾向であった生徒が、個別の働きかけにより不登校にならなかつた。</li> <li>△ 不登校の解消を最大の教育課題に位置付け、教職員が組織的に対応したが、改善には至っていない。</li> <li>○ 薬物乱用及び非行防止教室等で関係機関と連携した指導により、健康・安全への意識が高まった。</li> <li>○ 生徒・保護者に情報端末利用の際の注意事項について、京丹後署スクールサポーターの講話を実施し、注意喚起にたいへん効果があった。</li> </ul>		

健康(体 育)・安全	◇食育の推進による正しい食生活への理解と深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との合同避難訓練、京丹後警察スクールサポーター活用の不審者対応避難訓練の実施</li> <li>・京丹後食育の日、給食週間を活用した、食育に関する教育活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週水曜日、教職員・PTA会員による登校指導で、ヘルメットの着用、交通ルールの徹底が図れた。</li> <li>○初めて保護者対象の給食試食会が実施でき、食育への理解が深まった。</li> <li>△軽微な交通事故が3件(2月末現在)発生しており、継続的な交通安全指導が必要である。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇網野町域小中一貫教育への参画</li> <li>◇橘小学校との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野町域小中一貫教育経営会議、全体研修会等への参加</li> <li>・共通指導事項「これだけは(授業編)」に則った授業づくり</li> <li>・橘小学校との交流、合同行事の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体研修会に参加することにより、網野町域が進んでいる小中一貫教育の目標や方法の理解が進み、生徒への指導に生かすことができた。</li> <li>○橘小との合同避難訓練、地域貢献活動に加え、市音楽フェスティバルにも合同で出演し、地域から高い評価を得ることができた。</li> <li>○学期に1回、小中学校相互の授業参観や授業アンケートで小中学校授業のあり方を研修し授業改善に役立てた。</li> <li>△授業づくりの視点が明らかになり、教員の授業改善への意識は確実に高まったが、具体の実践はまだ進んでいない状況にある。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒・学校の実態を保護者・地域住民と共有化し、連携協力による健やかな生徒の育成</li> <li>◇学校評価等の活用による教育活動の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の学校日より、PTA通信、学校再配置日より「かけはし」を全区民へ回覧配付</li> <li>・学校公開を積極的に開催</li> <li>・ふれあいコンサート、区民運動会、地区文化祭、ウルトラマラソンボランティア等への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校公開、学校日より、ホームページ、行事参加等によりアンケート結果に大きな改善が見られた。(例:「学校は明確な目標を持って生徒を指導している」満足度80%(H25)⇒95%(H26)へ上昇)</li> <li>○区民運動会での「全校よさこい」、文化祭での3年有志による「よさこい」で、中学生の元気な姿を地域に発信することができた。</li> <li>△学校行事に比べ、教科の授業参観の機会が少なかった。</li> </ul>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇再配置の動きを的確に伝えることによる、保護者・地域の不安の払拭</li> <li>◇外部の人材活用による学校教育の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再配置を見越した網野中との交流行事等の推進</li> <li>・学校再配置日より、学校日より、ホームページ、PTAブログ等による再配置情報の発信</li> <li>・学校支援ボランティア等外部の人材による教育活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校再配置日より「かけはし」、学校日より「学校再配置コーナー」、ホームページ、PTAブログ等により再配置情報を発信することで学校再配置の不安を軽減できた。</li> <li>○網野中学校と合同で伝統文化体験活動、職場体験学習、花いっぱい運動などを行い、外部の方と積極的に交流し、教育の質の向上を目指した。</li> <li>○バレーボール部は外部コーチの支援もあり府大会ベスト6入りを果たすことができた。</li> <li>△外部人材を教科指導に多様に取り入れることができなかった。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校再配置後の新生網野中学校において、人間関係のトラブル等による学校不適応が発生しないよう、生徒の状況把握や情報共有を緻密に行い、問題事象の未然防止に努める。</li> <li>2 橘中学校の生徒・保護者が疎外感を持たないよう、万全の配慮を心がける。</li> <li>3 網野中学校小中一貫教育の方針に基づき、中1ギャップの解消と授業改善を推進する。</li> </ol>		



## 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹後中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>新生「丹後中学校」の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。「再配置して良かった。」と実感してもらえような丹後中学校の教育を創り上げることである。</p>	<p>宇川中学校・間人中学校の最終年度として、閉校に向けた取組を充実させることができた。また、丹後中学校の開校に向けた準備を進め、生徒が当初に混乱しないように、交流行事や合同の取組を実施して、生徒も教師も交流できた。課題は、開校後に生徒が安心して学習できる環境作りである。</p>	<p>①2校の教育を受けてきた生徒たちが、新しい仲間関係を築き、明るく生き生きとした学校生活を送ることができるようになること</p> <p>②小中一貫教育導入準備校(1年次)として、小中で交流行事や合同研修などを進めること</p>		
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい授業づくりを行う。</li> <li>・言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。</li> <li>・基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会及び相互の授業参観や教材研究を通して、生徒にとって分かりやすい授業づくりを研究する。</li> <li>・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫し、実践する。</li> <li>・ドリルや家庭での課題学習を継続的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「授業づくりパッケージ」を提示して、ねらいの明確な授業づくりを推進できた。(校区小学校にも提起した)</li> <li>○相互に意見を述べたり、文章で思いを書いたりする機会を増やし、言語活動を充実させることができた。</li> <li>△家庭学習については、個人差が大きく課題である。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる仲間関係を築かせ</li> <li>る。</li> <li>・新しい学校としてのルールを確認しながら定着させる。</li> <li>・SNS等の使用について、実態を把握して指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中のみならず、生徒の休憩時間も教師が教室や廊下にいるようにして、生徒の状況を丁寧に把握すると同時に生徒との関係づくりを進める。</li> <li>・月ごとの「月目標」を定め、指導の重点を確認しながら、新しい学校としての規範作りを進める。</li> <li>・「非行防止教室」を開催する。学級での指導も進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧に教師が観察したり声かけをしたりする中で、生徒の状況を的確に把握し、タイムリーな指導ができた。</li> <li>○「月目標」を全教職員で指導することで、学校としての規律を築けた。</li> <li>△SNSの課題については、保護者も一緒に進んで研修しながら、生徒に指導していく必要がある。</li> </ul>	
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力を育てることで、忍耐力などの心の強さも鍛える。その力を学習にもつなげる。</li> <li>・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校として、部活動の指導を重視し、体育系のクラブだけでなく、文化系のクラブの生徒についても、体力作りを推奨して進めていく。</li> <li>・登下校の見守り指導及び挨拶運動を展開する。</li> <li>・学期ごとに、安全な校内生活の指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力作りを進める中で、駅伝競走大会に向けた「駅伝練習」に約30名の生徒が参加し、体力及び忍耐力をつけた。結果として、男子チームが府大会に出場することができた。</li> <li>○登下校の指導の結果、交通事故なく、挨拶もできるようになった。</li> <li>△校内でのけがが多く、更に安全指導を必要とする。</li> </ul>	

小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の授業研究会を開催して、指導の系統性を研究する。</li> <li>・小中交流事業を通して、中学生の自覚を高める。</li> <li>・導入準備1年次として、教職員の参画意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第Ⅱ期（小学5年～中学1年）を中心に授業研究会を開催して、小学校の授業参観・事後研究会などから、中学校と指導に生かせることを学ぶ。</li> <li>・中学校の合唱祭への6年生招待や6年生部活動体験など、小学生と中学生の触れあう場面を計画的に設定して交流させる。</li> <li>・夏季全体研修会や年度末全体研修会などを通して、教職員の参画意識・当事者意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学5年生と小学6年生の授業参観及び事後研究会に3校に分かれて参加し、小学校の授業の良さを中学校の授業に取り入れることができた。また、授業についての意見交流を行うことができた。</li> <li>○主に小学6年生との交流であったが、この取組を通して、6年生に中学校生活への夢や期待を与えることができた。</li> <li>○合同研修会（夏3回）及びび年度末研修会などで、全体としての取組経過や方向性などを全体で共有でき、個々が小中一貫教育について共通理解できてきた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、新生丹後中学校の教育を理解していたただく機会とする。</li> <li>・学校だよりは発行回数や配付対象に限られるので、よりタイムリーな情報として学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学校の教育活動を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校式に始まり、入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民生委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を頂戴するようにしていく。</li> <li>・校舎を活用していない旧宇川中学校区の皆さんにも生徒の様子がよくわかるように、写真をできるだけ掲載した学校だよりやホームページの作成に心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や儀式、授業参観に多くの方々においでいただいた。また、学校地域支援本部事業のボランティアの方々にも様々な支援をいただくと同時に、本校の生徒の活動の様子や教育のあり方について見ていただくとよかった。</li> <li>○特にホームページの更新に心がけ、ほぼ毎日刷新した。その結果、1年で3万アクセスとなり、1日約90のアクセスをいただいたこととなる。生徒の状況や学校の様子を多くの方々に発信できたことは、本校1年次にとって大変大きな効果があった。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性にあった支援を計画的に実践する。</li> <li>・特別支援学級在籍の不登校生徒の進路を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、適切な支援を実施する。</li> <li>・計画的な家庭訪問及び個別指導を行い、進路実現について具体的な取組を展開していく。（年度当初より実施する。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援学級在籍の生徒については、個々の実態に合った指導・支援が実施でき、学習に意欲的に取り組めた。また、通常学級の生徒についても、タイムリーな支援を実施することができた。</li> <li>○計画的に相談・指導を進め、進路実現ができた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>①開校2年目となるので、生徒がより安心して学校生活を過ごすことができるように、生徒同士の深い信頼関係を構築する。</li> <li>②小中一貫教育導入準備校として2年次との連携の在り方を更に研究して、児童・生徒への指導の一貫性を追求する。</li> <li>③「再配置して良かった」と生徒や保護者・地域の方々に実感していただける「丹後中学校の教育」を更に進め、「質の高い学力」を身に付けさせる。</li> <li>④開かれた学校にするため、ホームページの活用を進めると同時に様々な機会に学校を公開するようしていく。</li> </ul>		

# 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立弥栄中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 基礎学力の定着及び充実向上	1 学力	1 学力	1 学力	1 学力	1 学力
2 生徒指導の充実	○基礎基本の徹底と学力の定着につながる日常的な取組が推進できた。	○基礎基本の徹底と学力の定着につながる日常的な取組が推進できた。	○基礎基本の徹底と学力の定着につながる日常的な取組が推進できた。	・教科指導における指導方法の工夫と改善及び校内授業研究会の実施、各種診断テストの分析。	・教科指導における指導方法の工夫と改善及び校内授業研究会の実施、各種診断テストの分析。
3 心の教育の充実、不登校の未然防止と解消	△総合的な学習の時間の工夫と評価の改善が必要である。	△総合的な学習の時間の工夫と評価の改善が必要である。	△総合的な学習の時間の工夫と評価の改善が必要である。	・基礎基本の徹底を図る指導と更に学力の定着につながる日常的な指導の継続。	・基礎基本の徹底を図る指導と更に学力の定着につながる日常的な指導の継続。
4 安心・安全で信頼される学校づくり	2 心の教育	2 心の教育	2 心の教育	・生徒が自ら学ぶ意欲を喚起するとともに、家庭学習のさらなる充実と発展。	・生徒が自ら学ぶ意欲を喚起するとともに、家庭学習のさらなる充実と発展。
	3 安心安全な学校づくり	3 安心安全な学校づくり	3 安心安全な学校づくり	2 心の教育	2 心の教育
	○体験活動の充実と異年齢集団活動の充実が図れた。	○体験活動の充実と異年齢集団活動の充実が図れた。	○体験活動の充実と異年齢集団活動の充実が図れた。	・異年齢集団の活動の充実による自己肯定感の醸成。	・異年齢集団の活動の充実による自己肯定感の醸成。
	○朝読書が定着し、芸術鑑賞が実施できた。	○朝読書が定着し、芸術鑑賞が実施できた。	○朝読書が定着し、芸術鑑賞が実施できた。	・道徳の時間や朝読書のさらなる充実による心の教育の充実。	・道徳の時間や朝読書のさらなる充実による心の教育の充実。
	○教育活動の保護者への公開やHPの更新ができた。	○教育活動の保護者への公開やHPの更新ができた。	○教育活動の保護者への公開やHPの更新ができた。	3 安心安全な学校づくり	3 安心安全な学校づくり
	○地域の教育資源が活用でき地域連携が図れた。	○地域の教育資源が活用でき地域連携が図れた。	○地域の教育資源が活用でき地域連携が図れた。	・危機管理体制の確立と危機管理意識の高揚。	・危機管理体制の確立と危機管理意識の高揚。
	○研修等により危機管理体制や意識の高揚が図れた。	○研修等により危機管理体制や意識の高揚が図れた。	○研修等により危機管理体制や意識の高揚が図れた。	・関係機関との連携強化。	・関係機関との連携強化。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の徹底と、学力の定着につながる日常的な取組の推進</li> <li>・学習規律、学習習慣の確立</li> <li>・全ての教育活動を通して学力の基本となる言語力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究会の実施と指導方法の改善</li> <li>・教務主任主導による各教師の授業の振り返りを実施し「授業振り返り通信」を発行</li> <li>・各種学力診断テスト等の分析と小中連携による小中共同課題の共有と取組</li> <li>・授業アンケートと学校生活アンケートの実施と活用</li> <li>・定期テスト前全校学習の実施</li> <li>・長期休業中と土曜活用による学力向上のための全校補充学習の実施と日々の延長補充学習の実施</li> <li>・3年生による1・2年生の延長学習時間を利用した教科学習指導の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内授業研究会を実施することで、各教師が教科指導についての振り返りが意識できるようになった。</li> <li>○各教師の意識の向上により、授業の基本である学習規律の定着が図れた。</li> <li>○各種補充学習は、教師と生徒の意欲的な姿勢から、多くの生徒の参加で実施でき、成果があった。</li> <li>△家庭学習の定着を図る取組については不十分さが残り、今後の大きな課題である。</li> <li>△各教科の授業や行事の取組などにおいて、自分の思いや考えを自分の言葉で発言する力に不十分さが残った。</li> </ul>		

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の未然防止と不登校生徒出現防止</li> <li>・教育相談体制の確立</li> <li>・部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例的教育相談部会・生徒指導部会の開催</li> <li>・学校生活における基本的なマナー、ルールの指導</li> <li>・全教育活動における道徳教育の推進と、異年齢活動による自他を思いやる心の育成</li> <li>・問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と早い対応を基本とした生徒・保護者への粘り強い指導。</li> <li>・校内教育相談体制の確立といじめアンケータの実施によるいじめや不登校の未然防止と解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題事象の詳細な事実関係把握と、本人や保護者に対する適切で早い対応と教員が共通理解した指導ができた。</li> <li>○毎週定例会議を開催し、情報を共有し共通理解を図った上で課題解決にあたった。</li> <li>○SC、関係機関との連携することで指導効果が上がった。</li> <li>△不登校及び不登校傾向生徒については現在も何名かの生徒があり、完全解消という点では不十分が残った。</li> </ul>
健康(体育) ・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・保健教育と保健管理の徹底</li> <li>・防災意識の高揚と事故防止</li> <li>・部活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の健康観察の実施と保健指導の充実</li> <li>・薬物乱用防止教室や性に関する指導等、各学年の実態に即した保健教育を実施</li> <li>・学期ごとの避難訓練の実施と自転車点検の実施</li> <li>・早朝ランニングの確立と部活動の時間確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の健康観察は個々の健康状態の把握に大変有効だった。特にインフルエンザ流行時は早くに予防指導や予防措置を講じることができた。</li> <li>○早朝ランニングが充実し部活動が活性化した。</li> <li>○避難訓練を実施することで、生徒の防災意識を高めることができた。</li> </ul>
小中一貫教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着と充実向上</li> <li>・生徒指導・教育相談活動の充実</li> <li>・教職員の小中連携、小中一貫教育への理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力授業づくり会議主導による「小中共通の授業づくり」の計画と実施及び検証</li> <li>・生徒指導・不登校部会主導により「9年間を見通した指導方法」作成と研究、「アセス」の全校実施</li> <li>・児童生徒の交流事業の実施と教職員による授業参観や他校種研修等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中共通の授業づくりについての研究が進んだ。</li> <li>○部活動体験や小中合同あいさつ運動、心の文化発表会への参加等、児童生徒の小中連携が進んだ。</li> <li>○全体会を3回開催するとともに、各種部会の開催、他校種研修、授業参観等の実施により、教職員の小中連携が推進された。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上と希望進路実現</li> <li>・キャリア教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種データによる生徒の学力実態や課題を踏まえた指導</li> <li>・生徒や保護者とのこまめな丁寧な面談の実施</li> <li>・進路にかかわる情報提供等、計画的な進路学習の実施</li> <li>・学年に応じた計画的な進路学習の実施</li> <li>・高校入試新制度への確実な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての保護者を対象とした進路説明会、高校説明会の実施と複数回にわたる個人面談等の実施ができた。</li> <li>○高校入試が新制度で実施されたが、大きな混乱もなく受験を終えることができた。</li> <li>△キャリア教育を推進するという点では、学年を系統立てて指導することができなかった。</li> </ul>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全、生活安全に対する意識の向上と事故防止</li> <li>・危機意識、対応能力の向上</li> <li>・教職員の服務規律確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察を含めた関係機関との連携のもとに、交通教室等の実施する。</li> <li>・学期一回の避難訓練の実施と校内安全点検を実施する。</li> <li>・事例をもとに、教職員の危機管理意識を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画通り整然と避難訓練が実施でき、講話を関心を持って聴くことができた。</li> <li>○教科学習時間以外に避難訓練を実施し、自分たちのとつた緊急対応を考えさせ、危機対応意識の向上を図った。</li> <li>△事故防止への危機意識が不十分である。</li> <li>△定期的な校内安全点検が実施できていない。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育を一層推進し、指導方法を改善を図り、家庭学習習慣を定着させ、学ぶ意欲を高める取組を実施する。</li> <li>・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を向上させることで問題事象の未然防止を図る。また、教育相談活動をさらに充実させとともに、小中連携を強化することで、不登校及び不登校傾向生徒出現の未然防止を図る。</li> <li>・信頼される学校づくりに向け、教員個々の教科指導力や教育相談の力量等を向上させ、生徒や保護者、さらには地域からの信頼が得られるよう校内研修を含めた各種研修の充実や日々の研修に努める。</li> </ul>		

## 平成26年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立久美浜中学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	学校再配置をして、みんながよかったと言える学校づくりの推進	○学校再配置の初年度を、両校の教職員で教育活動を共通確認したことから、よいスタートができた。	○学校再配置の初年度を、両校の教職員で教育活動を共通確認したことから、よいスタートができた。	1	組織的な学校運営をするため、職員会議・企画会議・学年会・生徒指導部会・教育相談部会等の充実
2	職員体制を確立させ、組織的な指導力の展開	○若く経験年数の浅い教職員が多いため、分学組織や日常的な教育活動を通して研修や面談を積極的に実施し人材育成を図った。	○若く経験年数の浅い教職員が多いため、分学組織や日常的な教育活動を通して研修や面談を積極的に実施し人材育成を図った。	2	積極的な生徒指導による質の高い集団づくり
3	学力の充実・向上を図るとともに、キャリア教育を生かした進路指導の推進	○生徒支援を基盤とし、問題事象に対する迅速かつ組織的に丁寧な指導と基礎学力の定着を図った。	○生徒支援を基盤とし、問題事象に対する迅速かつ組織的に丁寧な指導と基礎学力の定着を図った。	3	学力の充実を図り、希望する進路の実現
4	豊かな心を育成する教育の推進	△不登校、不登校傾向生徒の解消に向けた取組の強化	△不登校、不登校傾向生徒の解消に向けた取組の強化	4	豊かな心の教育の推進
	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	1 生徒や地域の実態に即した教育課程の編成 2 授業実践力の向上 3 言語活動の充実 4 学習習慣の確立	1 地域の人材を生かした教育活動の推進 2 ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善 3 三系統別部会(文系・理数系・芸術系)を基盤とし、言語活動の育成に向けた授業研究会の実施 4 授業と連動させた家庭学習の充実と週末課題の取組 5 補充学習の取組の充実	○総合的な学習の時間や特別活動の時間を活用し、地域学習や将来の生き方を考え、自らの振り返りが促された。 ○通年の久美中ドリルの実施や補習学習、土曜活用など基礎・基本の徹底に取り組み、低学力層の改善に繋がった。 △系統別に、グループによる学習や記述などを通じた言語活動を視点に入れた授業改善の研修を進めたが、不十分さを残した。 △家庭学習の実態を把握し、週末課題を計画的に位置付けたが、自主的な学習の定着には弱さを残した。		
生徒指導	1 人権・規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感を育て、共感的な人間関係の育成 4 望ましい集団活動と多様な体験活動の充実 5 不登校・不登校傾向の生徒の未然防止と解消	1 教師と生徒との信頼関係の構築 2 人権に関わる問題への毅然とした対応・指導 3 問題事象等、課題と指導内容を明確にした組織的対応 4 生徒の良さを教師が発表する全校集会の実施 5 生徒会活動や学級活動を充実させた課題解決 6 週1回の計画的な生徒指導部会と教育相談部会の開催	○問題事象や課題等、報告・連絡・相談し共通理解のもと全教職員で指導にあたり、落ち着いた学校生活を送れた。 ○生徒会本部役員を中心とし、行事への達成感や「夏みかんの日」の取組など、学校生活向上に目を向けさせ、日常的な委員会活動を活性化させ、生徒の意欲を喚起させた。 △「はーと・ホット・タイム」の実施は、タイムリーな内容と年間を通じた取組の定例化が必要である。 △定期的な部会を開催し、今後の方針について全教職員の共通理解が図れたが、不登校生徒解消には至っていない。		

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 部活動の充実と達成感の享受</li> <li>2 緊急時対応訓練の充実</li> <li>3 食育指導の充実</li> <li>4 交通安全指導の徹底</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師の指導力向上にむけた研修会の実施</li> <li>2 緊急時対応訓練の充実（地震・火災・不審者）</li> <li>3 食育指導と保健指導との連携</li> <li>4 1年生の交通安全教室の実施</li> <li>5 教師とPTAとの連携による交通指導の実施</li> </ol>	<p>○効果的な部活指導の在り方を研修し、生徒の意欲が高まり朝練習にも意欲的に取り組み、好成績を残した。</p> <p>○栄養教諭と養護教諭との連携した取組により、生徒は健康への関心・意欲が高まった。</p> <p>△緊急時対応マニュアルの見直しと訓練内容の工夫を行い、さらに効果的に取組む必要がある。</p>
小中一貫教育への取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 系統的、一貫性のある指導の推進</li> <li>2 小・中学校における指導の連続性</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小・中学校の教員が一同に会して研修し、共通理解を深める。</li> <li>2 3領域部会（学力・生徒指導・教育相談）を設置し研修を深める。</li> </ol>	<p>○全体研修会を通して、教員同士の連携や小中一貫教育の共通理解が深められ、日々の教育活動に生かされた。</p> <p>△指導実態を交流し、児童生徒の発達段階を見据え小・中学校での連続性を持たせた指導の在り方について各領域での研修を深める。</p>
開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的な学校公開</li> <li>2 学校・家庭・地域社会との連携</li> <li>3 生徒・保護者アンケートの実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校行事等を通じた情報収集と発信（授業公開・部活参観・ボランティア活動・合唱祭・体育祭・学習発表会・作品展・三者面談等）</li> <li>2 地域社会との連携（民生児童委員協議会・久美浜町有線放送・同窓会・社会教育との連携等）</li> <li>3 12月に実施し、2月の年度末総会で分析と検証・次年度の方策を提起</li> </ol>	<p>○再配置2年目であり、積極的に学校を公開し、また頻繁なホームページの更新や学校だより等の情報発信を通して保護者や地域から学校への要望等も聴き、共通理解を得ながら教育活動を進めることができた。</p> <p>○学校行事に対する保護者・地域住民の関心は高く、そのことが生徒の励みとなり相乗効果があり行事は成功した。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個々の生徒の実態把握と教育的ニーズに応じた支援</li> <li>2 発達障害の正しい理解と指導方法の研修</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 チェックリストによる実態把握と分析・研修会の実施</li> <li>2 特別支援を要する生徒のアセスメント票の作成と個別の指導計画と支援計画の作成</li> <li>3 発達保障の観点から多様な集団との交流を図る</li> <li>4 関係諸機関との連携と保護者懇談の実施</li> </ol>	<p>○学校が求められ、保護者アンケートではよい評価を得た。</p> <p>○学校の教育活動を率直に伝えることで、保護者からの協力が求められ、保護者アンケートではよい評価を得た。</p> <p>○多様な生活集団や体験活動を通して、生活経験を豊かにさせ社会性を身につけることができた。</p> <p>○関係機関との連携により、正しく見立てを行い保護者との連携が強化できた。</p> <p>△特別支援を要する生徒が年々増加傾向にあり、教育相談部との連携を強化させるとともに、個別の支援計画の実践・検証し見直しをしていく。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 三者会議、企画会議で学校課題を明確にし、組織的に教育活動を推進させる中で人材育成を図る。</li> <li>2 豊かな人間性と質の高い学力を育成するため、各分掌や教育活動の接続・連携・充実を図るため全体指導計画の見直しを進める。</li> <li>3 不登校生徒（傾向も含む）及び特別な支援を要する生徒の実態把握、指導方針を保護者との共通理解のもとで推進する。</li> <li>4 学校再配置3年目を迎え、さらに保護者・地域との連携を深め、小中一貫教育の視点を入れ、地域に根ざした学校づくりを創造する。</li> </ol>		